

## 橋の流失

梅雨の末期には梅雨前線が停滞し、活動が活発になって大雨になることがあります。河川が増水し、時には橋が流失することもあります。今回は愛媛県内子町の豊秋橋と徳島県美馬市の小島橋の流失についてお伝えします。

### ■豊秋橋の流失（愛媛県内子町）

大正 12 年（1923）7 月 11 日、数十年来の大降雨があり、小田川の増水は甚だしく、五十崎町（現内子町）字上村新川筋堤防が 2 箇所決壊、矢ヶ谷・鳥越方面の高い道路さえ数寸の流水がある有様となりました。町全部が浸水し、田畑、山林の被害は甚大で、豊秋橋が流失しました。小田川左岸の天神村消防沿革誌によると、消防は老人、子どもの避難に努め、店舗の荷上げ、その他水災予防に尽力し、豊秋橋の流失により五十崎町との交通が杜絶したため、舟渡しと仮橋架橋に出動しました。復旧工事として、荒蕪地となった田畑の耕地整理が行われ、流失した豊秋橋には鉄筋コンクリート橋が架設されることになりました。〈五十崎町誌編纂委員会編「五十崎町誌」1971 年、五十崎町誌編纂委員会編「改訂五十崎町誌」1998 年〉



### ■小島橋の流失（徳島県美馬市）

昭和 28 年（1953）7 月 17 日から 21 日頃まで梅雨前線が停滞し、吉野川上流域でもかなりの雨となりました。吉野川が増水し、左岸の岩倉町別所と右岸の三島村小島（いずれも現美馬市）の間に完成したばかりの小島橋（幅 3m、長さ 156m）が流失しました。橋ができるまでこの間は渡船で結ばれていましたが、昭和 24 年に吉野川で芝坂小学校（かつて美馬市美馬町にあった小学校）の児童が遭難したことを契機に、関係者の間で架橋の話が持ち上がり、県に陳情しましたが受け入れられず、三島・岩倉両町村が協議して双方の負担で木製土橋を建設したばかりでした。小島橋は開通式を待たずに流失したのでした。〈脇町史編集委員会編「脇町史下巻」2005 年〉

